

アスリートも初心者も

余塵

ミラノ・コルティナ冬季五輪に挑むアイスホッケー女子日本代表候補の発表が25日あった。23人のうち、12人を釧路勢で占めた▼釧路

が本拠地のクラブチームのDai-shinから最多の7人が選ばれた。昨季、日本リーグと全日本選手権で2冠獲得。今季も好調で日本リーグ連覇。所属選手が今年2月の五輪最終予選突破に貢献。4年前は1人だったが、今回の大量選出は予想通り▼関係者を驚かせたのは、所属する企業・学校別で釧路公立大学(KPU)が最多の4人の名を連ねたこと。幼少期から、釧路で力を付けてきた女子選手の多くは高校卒業後、わざわざ道央や首都圏に進学、就職して競技を続けている。今回、伸び盛りの世代が、釧路で競技と学業を両立させて代表入り。切れ目なく釧路にあって夢をかなえられると内外に示した▼一方で、学内には女子アイスホッケー部がある。大半の部員は入学してからスケートを始めたという初心者だが、釧路だからこそそのスポーツを楽しんでいる。アスリートも初心者も氷上競技に没頭できる環境がある。KPUで芽が出た創流を追跡していく。(山本 雅之)